そよかぜ
毎日新聞西部社会事業団だより

第68号　2007年2月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　田上　猛
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213

「ありがとうございました」

浄財742万余円

歳末助け合い「愛の義援金」 児童養護施設などに配分

「ありがとうございました」――毎日新聞社が昨年12月にお願いした歳末助け合い「愛の義援金」の集計結果がまとまった。海外救援金などを含め1202件、総額742万余円が寄せられた。集まった浄財は、児童養護施設や障害児入所施設の子どもたち715人にランドセルなどをプレゼントするほか、各種福祉団体への活動助成費などとして配分される。

「愛の義援金」は一般の社会福祉基金のほか、海外救援金や小児がん征圧募金なども含まれ毎年、12月の1カ月間を募集期間として広く呼び掛け、例年11月旬ごろから届き始める。今年度も例年通りの出足を見せ、年明け後まで続いた。この結果、総件数で1202件、総額742万2493円の浄財が寄せられた。前年度に比べ件数で117件、額で1756円減少したが、前年度分に海外救援金1件、14万9956円▽小児がん募金2件、800円だった。

1件当たりの募金額は6175円と、通常の募金に比べ、高額になった。その大半は個人としての募金で中には親子・兄弟姉妹、祖父母と孫、家族ぐるみでなどのほか、学校・幼稚園や職場、趣味やスポーツのサークル、病院・診療所、宗教団体などの団体などの募金も目立った。この中には街頭で道行く人たちに呼び掛けて、15万4千余円を寄託した山口県光市の光高校の生徒たちの例もあった。

また地域別にみると別表Ⅱ右下、の通りだが当本社のある北九州市内の方々が圧倒的に多く件数で全体の35%、金額では39%を占めた。

純粋の歳末募金だけをみると1176万4726件、726万7537円(前年度7674件、760万2260円)ほぼ前年度並みだった。このほか海外救援金は23件、14万9956円▽小児がん募金2件、800円だった。

街頭募金で集めた15万4千余円を持参した山口県光高校の生徒たち(12月22日、毎日新聞周南支局で)

ランドセルや目覚時計など贈る

92施設、715人に祝い品

福祉10団体には助成金

これらの浄財は第一次配分として福岡、山口、長崎各県内の103カ所の児童養護施設や児童福祉施設のうち、今春、小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちがいる92施設の715人に新入学・卒業の祝い品を贈る。新入学児童にはランドセルやリュック、手提げ、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学、高校を卒業する子どもたちには目覚し時計か図書カードをプレゼントする。

更に第二次配分として福岡、山口両県の共同募金会や児童福祉連絡会、交通遺児を支える会、九州盲導犬協会、福岡・北九州のいのちの電話、北九州・あゆみの会、障害福祉ボランティア協会など福祉10団体に活動費の一部を助成金として左表のように配分することにしている。

06年度歳末募金事業別配分額

(単位：円)

【第1次配分】	
児童福祉施設祝い品	3,687,610
【第2次配分】	
共同募金会	1,800,000
交通遺児を支える会	400,000
九州盲導犬協会	300,000
いのちの電話	700,000
北九州「あゆみの会」	300,000
障害福祉ボランティア協会	300,000
児童福祉連絡会	200,000
第2次配分計	4,000,000
総計	7,687,610

06年度県・政令市別歳末募金

県・政令市別		06年度 件数	06年度 金額	05年度 件数	05年度 金額
北九州市	門司区	124	884,569	120	902,730
	小倉北区	85	765,305	95	790,818
	小倉南区	85	446,898	78	366,080
	戸畑区	18	166,000	21	131,000
	八幡東区	29	140,169	33	528,935
	八幡西区	64	411,592	72	410,100
	若松区	18	95,793	23	161,890
小計		423	2,910,326	442	3,291,553
福岡市		100	695,747	105	925,571
その他福岡県		251	1,448,768	238	1,842,630
山口県		305	1,618,919	322	1,900,119
長崎県		37	214,429	33	201,846
大分県		29	188,000	21	122,106
佐賀県		14	88,804	12	93,000
熊本県		12	72,500	12	97,500
鹿児島県		18	108,000	17	54,500
宮崎県		8	32,000	12	52,187
その他		5	45,000	2	12,050
合計		1,202	7,422,493	1,216	8,593,062

歳末チャリティー「書画・陶工芸品即売展」

作家952人が1768点寄贈

大勢の美術ファンで賑わった歳末チャリティー即売展(12月3日＝小倉会場で)

全国の著名な作家から寄贈された作品を一堂に集めた(財)毎日新聞西部社会事業団の06年度歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は昨年12月、予定通り北九州、山口、福岡各市の3会場で開催され、このほど、収支概要がまとまった。出品規模は全国の952人の先生方から1768点の作品が寄せられ、総売り上げは約2千万円だった。

「入札作品をもっと観たい」。そんなファンの声に応えるため、前年まで2時間で終了していた入札を今年度から2日目までに延長した。これに伴い一部変更し、前年まで1日限りだった北九州展は06年12月2、3日(小倉北区・毎日西部会館)の2日間とし、同様に3日間だった山口展は同16、17日の2日間に短縮、会場も従来のちまきやデパートから近くのコミュニティーホールに移動して約3倍の広さを確保した。福岡展は従来通りの福岡市中央区天神・アクロス福岡(23、24日)で開催した。

出品については2000人を超す先生方にお願い状を出した。その結果、各部門別(カッコ内は点数)には、洋画426人(738点)▽日本画120人(225点)▽陶芸240人(375点)▽書家37人(115点)▽高僧・神官51人(151点)▽芸能・文化43人(83点)の先生方から作品の寄贈を受けた。

前年度に比べると、寄贈者数で59人、寄贈点数で201点減少したが前年度までの残として引き継いだ1200点余を加えると、この種のチャリティー展としては最大規模の3000点を超す大規模展となった。

3会場合わせた総売り上げは約2000万円で、前年度に比べ約260万円減少した。経費を差し引いた益金約780万円は社会福祉事業資金として、貴重な財源となる。

恵まれない子どもたちや障害者、高齢者などを対象にした福祉団体への運営助成金や療育キャンプ、障害児母親研修などの各種福祉事業の補助金などのほか、母子家庭や交通遺児家庭、ホームレス自立支援金などに活用される。

◇即売展出品数

	06年度 寄贈者数	06年度 寄贈点数	05年度 寄贈者数	05年度 寄贈点数	前年度比 寄贈者数	前年度比 寄贈点数
洋画	426	738	460	838	-34	-100
日本画	120	225	124	255	-4	-30
陶芸	240	375	250	376	-10	-1
工芸・彫刻	35	81	39	99	-4	-18
書家	37	115	36	135	1	-20
宗教	51	151	57	174	-6	-23
芸能・文化	43	83	45	92	-2	-9
計	952	1,768	1,011	1,969	-59	-201

第37回「毎日社会福祉顕彰」募集

5月31日締め切り 学術など6部門

社会福祉の発展向上に顕著な功績のあった個人や団体を顕彰する07年度の第37回「毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞社会事業団主催、厚生労働省・全国社会福祉協議会後援)の推薦募集が始まった。締め切りは5月31日。

この顕彰は1971(昭和46)年、毎日新聞社会事業団の創立60周年を記念して創設。毎年3～4人を顕彰、昨年までに特別賞を含め114個人、31団体が顕彰されている。対象は社会福祉分野の①学術＝優れた研究論文・資料の作成②技術＝独創的な科学技術やプロセスの導入で成果を上げた③創意＝独創的な発想、創意・工夫で業績を上げた④奉仕＝長年、国際的、地域的な福祉活動を継続⑤勤勉＝社会福祉施設などに30年以上勤続、かつ顕著な成績を上げた⑥その他＝以上の各項に該当しないが顕彰に値する功績がある――の6部門。

応募は他薦のみで各県社会福祉協議会か毎日新聞西部社会事業団、毎日新聞各県支局にある所定の応募(推薦)用紙で〒802－8651北九州市小倉北区紺屋町13の1、毎日新聞西部社会事業団(093・551・6675)へ送付する。

9月中旬ごろに審査結果を毎日新聞紙上で発表。受賞者には賞金300万円(1件各100万円)と賞牌を贈呈する。

◆「そよかぜ、どうしたの？」。廊下ですれ違う人から何度かそんな声を聞いた。「ちょっと待って」と言いつつ、1年過ぎ、やっと「68号」を発行した。

◆それにしても、こんなにも大勢の方々の善意に支えられているのだ、と改めて頭が下がる。この号は表も、裏も「ありがとう」「感謝します」で満載になった。1年ぶりの発行も、そんな感謝の気持ちが後押しした。

◆歳末の恒例行事となった助け合い募金「愛の義援金」。寄託して下さる方々も「恒例」にしていて、突発的な災害義援金を除けば毎年、件数も、金額も大きな変動はない。職場募金を届けてくれた方が「年が明けたら、また新しい募金箱を設置します」と言っていた。

◆もう一つの恒例行事がチャリティー即売展。が、寄贈して下さる先生方にとっては「恒例」などと言っておれない。当事業団はじめ、全国紙系社会福祉法人や地元マスコミも一斉にお願いする。受ける先生方は孤軍奮闘。それでも「お役に立てれば」と。

◆事務局を引き継いで丸2年。こんなにも素晴らしい「善意の世界」があるとは……まさに「目から鱗」。感謝の毎日である。(田)